

福島第一原子力発電所 F1 タンクエリアフランジタンク
(J3・J4・J6・I2・I3タンク) からの水の漏えいについて

< 参 考 資 料 >
2022年4月11日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- 4月11日午前10時56分頃、F1 タンクエリア※のJ3・J4・J6フランジタンクから、水が漏えいしていることを福島県職員が発見しました。その後、午後0時40分頃、当該漏えい箇所の確認を行っていた当社社員が、同エリアにあるI2・I3フランジタンクにおいても水が漏えいしていることを確認しました。
なお、漏えいした水は同タンクエリアの堰内に留まっており、外部への漏えいはありません。
- フランジタンクからの漏えい状況は以下の通りです。

< J3タンク > 漏えい箇所：タンクフランジ接合部
漏えい状況：10秒に1滴程度の水が滴下
滴下範囲：約20cm×約20cm×深さ約1mm

< J4タンク > 漏えい箇所：タンクフランジ接合部
漏えい状況：120秒に1滴程度の水が滴下
滴下範囲：約15cm×約15cm×深さ約1mm

< J6タンク > 漏えい箇所：タンク下部の床面ににじみ
※漏えい状況および漏えい範囲は確認中

< I2タンク > 漏えい箇所：タンクフランジ接合部
漏えい状況：10秒に1滴程度の水が滴下
漏えい範囲：タンク下部の床面ににじみ

< I3タンク > 漏えい箇所：タンクフランジ接合部
漏えい状況：30秒に1滴程度の水が滴下
漏えい範囲：タンク下部の床面ににじみ

※ Fタンクエリアは、5・6号機の低レベル滞留水を貯留しております。

-
- 上記タンクから漏えいした水のスミア測定を実施した結果、いずれのタンクについても、バックグラウンドと同等（約400cpm）であることを確認しました。
 - その後、漏えいした水が拡大するのを防止するため、同日午後2時38分頃、J3、J4、I2、I3タンクの滴下に対し養生および受けの設置を完了しました。J6タンクにおいては、漏えい箇所を確認できませんでしたが、拭き取りを完了しています。今後、経過観察していきます。
 - また、敷地周辺モニタリングポスト、連続ダストモニタに有意な変動がないことを確認しており、周辺環境への影響はありません。
 - 今後、フランジ接合部から水が漏えいした原因を調査するとともに、応急的な対策として止水材にて漏えい箇所を補修してまいります。
 - 引き続き、同タンクエリアのタンク内に貯留している水の処理を進め、貯留量の低減を進めるとともに、中長期対策として、フランジタンクを溶接タンクに切り替えていく予定です。

Fタンクエリア位置図およびF1タンクエリアフランジタンク漏えい箇所

【Fタンクエリア位置図】



【F1エリアタンク (J3・J4・J6・I2・I3)】

